

第二 管内状況

一 保安ノ状況

(一) 一般概況

管内ニハ約十萬ノ敵匪蟠踞シ近時後
方攪乱ヲ企圖シテ其ノ活動極メテ活
潑ナリ 故ニ稍治安ノ保持セラレ
アルハ僅カニ秩軍ノ駐此セル主要縣
城内及鉄道沿線ハ料ヲ至ニ料ノ範圍
ニ過キス而モ戒警備團内ニ於テ鉄道

及電線ノ破壊、列車並停車場、下士哨等
ノ襲撃、縣城砲撃等頻發シ治安状態最モ
險悪ニシテ寸毫モ偷安ヲ許サス
於ツテ皇軍ノ威力及ハサル奥地住民
ハ尚匪軍ノ優勢被占領地ノ奪還ヲ信
シ正規軍或ハ共産軍ノ指導下ニ自衛
隊ヲ組織シ或ハ偽縣政府ヲ樹立擁護
スル等抗日行動ニ出テツ、了リ
然レ共産軍駐屯地ニ残留セル支那人

中、有力分子ハ漸次皇軍ノ恩威ニ歸
服シ縣公署治安維持會、自衛團等ヲ組
織シ戕施策ニ順應シテ自治体ノ確立
ヲ圖リ住民ヲ指導シ住民亦一般ニ皇
軍ニ信附シ反蔣反戦氣運ノ抬頭ヲ見
ツ、アリ而シテ此傾向ハ將來戕軍兵
出地ヲ中心トスル治安ノ恢復ニ伴ヒ
逐日濃化擴大スルニ至ルモノト觀察
セラル

(二) 事項別状況

(1) 叛逆行爲ノ状況

未タ管内ニ於テハ支那側機関ノ叛
逆事象ヲ認メス

(4) 支那側要人並支那側軍(團)隊ノ動向
迅速果敢ナル皇軍ノ進撃ニヨリ管内
ニ於ケル主要官憲富豪等ハ逸早
ク河南省方面或ハ山間僻地ニ逃避
シ現存シテ縣公署ヲ安維持會

等ヲ樹立シアルハニ、三流以下ノ人
物ナリ而シテ、文筆ノ中ニハ未タ敵
匪、活動熾ンナル現下、治安状態ニ
鑑ミ前途ヲ憂慮シ曰、和見の態度ヲ
持スモノアリト雖多クハ漸次我聖
戰ノ目的ヲ諒解シ從來ノ抗日意識
ヲ放擲シ皇軍ニ信倚シテ我施策ニ
從ヒ民衆ノ指導啓蒙ニ努メ蔣政權
軍閥ノ壊滅ト中國新政權ノ確立發

展ヲ特望スル事其ノ活動ハ漸ク眞
劍味ヲ加ヘツ、アリ
匪團並各種思想團體ノ策動状況
管ぬハ東ニ太行山脈西ニ連枝山脈
ヲ控ヘ其支脈ハ全面ニ錯綜シテ汾
河ニ迫リ之ノ天險ニ踞蹌スル匪團
ハ現在中央軍ヲ主トシ共産八路軍
山西軍等約十萬ノ多キニ達シ我軍
ノ間斷ナキ勦討ニモ屈セス本秋來

皇軍、漢口攻畧ニ際シ後方攪乱ヲ
企圖シテ執拗ナル蠢動ヲ續ケ本年
九月中旬以降十月二十日迄、間意
兵ノ知得セルモノノミニテモ

鉄道破壊電線切断 四五件

下士哨所車場列車襲撃 一〇件
及縣城砲撃(主ナルモノ)

抗日反戦逆宣傳文撒布 一五件

ニ及ヒ又常ニ戦雲出地ニ間諜ヲ密
派シ兵力裝備等ヲ偵知シ襲撃奪還

ヲ企圖シアリ之等間諜ニシテ憲兵
ニ於テ檢舉セルモノ九月中旬以降
四片八名アリ、
而シテ敵匪團中共ノ行動活潑ナル
ハ中央軍及共產軍ニシテ閻錫山麾
下ノ山西軍ハ依然國共合作ニ反對
的態度ヲ示シ抗日氣勢振ハス尚毛
澤東麾下ノ共產軍ハ各地游撃隊ヲ
指導シ鄉村民衆ヲ動員シ抗日ニ名

ヲ藉リ游撃戦ニ参加セシメ之等ノ
地ヲ根據トシ各地ニ偽稱縣政府ヲ
樹文シ勢力ノ擴大游撃隊ノ増設ヲ
圖リ長期抗戦ニ依リ最後ノ勝利ヲ
獲得セント策動シアリ最近我軍ニ
飯順セル匪團ハ許家店ニ於テ約ニ
百餘汾ニ於テニ百聞喜ニ於テ紅槍
會匪ニ千六百合計三千ニ過キス
將來管内ハ其地理的關係ヨリスル

モ北支ニ於ケル匪團ノ巢窟トシテ
治安ノ恢復容易ニ非ラサルヘント
思考セラル
尚管ぬニハ現任思想團體ト目スヘ
キモノヲ認メス
匪團ノ分布附圖第一ノ如シ
(三) 支那側學校等ニ於ケル抗日容共教
育ノ狀況
嚴ニ注意中ナルモ我軍警備地區内

ニ於テハ曰下該當事衆ヲ認メス
(ホ) 管内民心ノ動向

本年二月下旬以降皇軍ノ進撃ヲ見
ルマ鉄道沿線都邑住民ノ大部ハ
山間部落ニ避難シ各城内ニ残留セ
ルモノハ老幼若及痲疾者等極メテ
少数ナリシカ我軍退出後漸次飯還
シ現存ニ於ケル人口ハ臨沱ニ五〇〇
(事変前約四万) 麗縣ニ六〇〇(事変前

約七千) 運城四。〇。〇(事変前約二万)
ニシテ各地共最近一日十名内外ノ
飯還着了リ今後治安ノ恢復ト冬期
ニ入ルニ伴ヒ避難民ノ飯還ハ逐日
増加ヲ見ルニ至ルヘシ
由來山西省ハ永年閩錫山ノ沿下ニ
在リテ住民間ニハ閩崇拜ノ念相
當根強ク且又一部ニハ共產主義思
想ノ浸潤アリ殊ニ多年ノ所謂山西

モンロー主義ニ依リ排他的氣分濃
厚ナリト雖モ我軍駐屯地ノ住民ハ
漸次皇軍ノ恩威ニ信賴シ當局ノ宣
撫工作ト相俟ツテ反蔣反戦ノ氣運
ト中國新政權擁護及親日ノ思潮
ヲ醸成シアリテ臨汾、霍縣ニ於テハ
九月中旬運城安邑ニ於テハ九月
未阿レモ五百乃至一千三百ノ民
衆ニヨリ盛大ナル反蔣反戦運動

大會ヲ開催セリ然レトモ我軍ノ勢
カ圏外ニ在ル奥地住民ハ敵軍ノ
使喚及強割ニヨリ各村落ニ自衛隊
ヲ組織シ或ハ青壯年者ニシテ游
撃隊ニ投入スルモノアリ又巧妙ナ
ル敵軍ノ宣傳ヲ盲信シテ我軍ノ
戦勝ヲ否定シ白本軍ハ近ク敗走撤
退スヘシト豫想スルモノ甚カラサ
ルモ一般ニ衣食住ニ於テ匪軍ノ

誅求ヲ受ケ疲弊困憊甚シク抗日意
 識ハ漸次銷磨シ只管治安ノ恢復ヲ
 特望シアリ

(ハ) 警備機關ノ狀況

(一) 日本側機關

○軍隊

牛島部隊	谷口部隊	部隊別
候馬嶺 以申以西	白介休 至候馬嶺	警備地區
運城	臨汾	部隊本部所在地

○警務機関

憲兵以外該當機関ナシ

(2) 支那側機関

○軍隊

ナシ

○警務機関

臨汾霍縣ニ自衛團運城ニ保安

隊アリ人員ハ各地共五十名内

外ニシテ警務ニ関シテハ憲兵

ノ區處下ニ情報蒐集城門並城
内ノ警備取締等ニ任シアリ

(1) 交通通信機關ノ狀況

(1) 鐵道

管内ヲ縱貫スル同蒲線ハ現在運
城迄一日一回(上下行共)ニ乃至
三ノ軍用列車集團運行シアルモ
敵匪ノ線路破壊又ハ軌道不完
全運轉手ノ技術未熟ニヨリ脱線

25

1086

等頒發シ運行時間モ一定セサル
狀況ニアリ運城以西蒲州間ハ軍
用トラック運行シアリ

(2) 航空

軍専用旅客機一機隔日ニ

太原—臨汾—運城間ヲ往復シ
アリ

(3) 通信

軍用電ハ聯隊以上ノ部隊ニ有線

電信ハ各小部隊ニ至ル迄架設セ
ラレ鉄道沿線各停車場ニハ軍用
並滿鉄所管電話ヲ通シアルモ電
信電話ハ絶ヘス敵匪ノ電線切斷
ヲ受ケ故障多シ
臨汾及運城ニ野戰郵便局アリ
未タ管内ニハ普通並支那郵便
便局ナシ
交通通信機關ノ狀況附圖 第二ノ如
シ

二 外國謀報網ノ狀況

曰下ノ處外國謀報機關タルノ確證ヲ把
握シ得サルモ霍縣、運城、解縣、新絳、蒲
州等ノ我作戰地域内ニ英國、佛蘭西
知蘭、瑞典等ノ國籍ヲ有スル宣教師
點在シアリ之等ハ上海、南京、天津方
面白國公館ノ手先トシテ信徒ヲ懷柔
時局謀報活動ヲ豫想セラルルヲ以テ
其ノ動靜鋭意ニ偵察中ナリ

三軍隊軍人軍属ノ状況

(一) 軍紀風紀

管内駐屯軍隊ハ何レモ各部隊長ノ道切ナル指導教化ニ依リ軍紀風紀概テ嚴肅ニ保持セラレアルモ當隊開設以來憲兵ノ取扱ヒタル軍人軍属ノ犯罪三片非違十片アリ、而シテ犯罪ハ上官暴行強盜殺人掠奪等何レモ惡質ノモノナルモ非違行為

ノ多クハ酩酊ノ結果論争シ又ハ服装
態度ヲ紊セルモノニシテ特ニ惡性ノ
モノヲ認メサルハ喜クヘキ現象ナリ

(二) 非違犯罪ノ状況

(1) 犯罪

當隊開設以來憲兵ノ取扱ヒタル軍
人軍属ノ犯罪ハ現役下士官ノ飲酒
酩酊ニ依ル上官暴行一昨(二名)豫備
役輜重兵時務兵ノ華人ニ對スル掠

奪一件(二名)軍属(外人)、強盗殺人
事件一件(二名)計三件四名ニシテ
其ノ罪質何レモ悪性ノモノナルハ
遺憾ナリ

(2) 非違

軍人軍属ノ非違行為ニシテ憲兵ノ
取扱ヒタルモノ現在迄ニ十件十
六名アリ而シテ非行ノ内容ハ外出
先ニ於テ飲酒酩酊ノ上服装態度ヲ

素シ又ハ同僚ト論争シ或ハ常人ニ
傷害ヲ與ヘタルモノ六件十一名其
他四件五名ニシテ憲兵ハ其ノ都度
本人ヲ嚴諭ノ上所属部隊ニ引渡シ
又ハ通謀シテ之ヲ警防ニ努メツ、
ニアリ

四. 在留内地人ノ状況

(一) 内地人ノ進出状況

當隊管内ニ於ケル内地人ハ五十三世

帯百四十八名ニシテ何レモ各地城
ニ居住シ主トシテ軍用達商人料理
屋飲食店等接客業者カ其ノ大部分
ヲ占ム
而シテ之等ハ何レモ事変後入城シタ
ルモノニシテ軍隊軍人ヲ對象トシテ
營業シアリ

(二) 思想非違犯罪ノ状況

内地人ハ一般ニ聖戦ノ目的ヲ理解

シテ皇軍ニ信倚シ軍ノ保護下ニ營業
シアルヲ感謝シアリテ思想穩健ナリ
犯罪ハ皆無ニシテ非違行為僅ニ一件
アリタルノミナリ

五、在留鮮人ノ狀況

(一) 鮮人ノ進出狀況

管内居住鮮人ハ七十八世帯三百九十
九名ニシテ由地人同様各地域内ニ居
住シ一部雜貨商ヲ營ミアル外其ノ

大部ハ接客業者ニシテ何レモ事変後
入城主トシテ軍隊軍人ヲ對象ニ營業
シアリ

然レトモ一部ノ者ニシテ一是ノ居所
並生業ヲ有セス各地ヲ徘徊シ面識ナ
キ鮮人ニ知人親戚ナリト稱シ寄食ス
ル者アルハ注意ヲ要スル所ナリ

(二) 思想非違犯罪ノ状況

居住鮮人ノ大部ハ皇軍ニ信倚シ其ノ

保護下ニアルヲ感謝シテアリテ思想穩
健憂フヘキ事象ヲ認メサルモ一攫千
金ヲ夢見テ私利私慾ノ爲ニハ其ノ手
段ヲ選ハサルカ如キ者アリ
最近軍属ト共謀強盜殺人罪ヲ犯シタ
ル者一名ノ外非違行爲ハ物質缺乏ヲ
奇貨トシ暴利ヲ貪ラントシタルモノ
又ハ軍白勳軍ヲ利用物質購入暴利ヲ
得ントシタルモノ等四件アリ此ノ種

1097

非行ニ関シテハ嚴ニ注意觀察中ナリ

六 軍事思想其他各種團體ノ狀況

該當事項ナシ

七 在留外國人ノ狀況

管内在留外國人ニシテ現在憲兵ノ知得
セルモノ十七名了、孰レモ基督敎宣敎
師ニシテ各主要地ニ敎會堂ヲ設置シニ百
乃至四百ノ支那信徒ヲ擁シテ之等信徒
間ニ勢力ヲ有シ末タ一般ニ援蔭排日ノ

31

思想ヲ有スル外事喪以來多數ノ避難民
 ヲ收容シアル等ノ事實ニ徴シ其ノ動靜
 最ニ注意中ナリ
 外人ノ居住狀況左ノ如シ

住所	国籍別人員				計
	英	佛	和蘭	瑞典	
霍羅縣	一	一	一	六	三
運城	一	一	一	六	三
解縣	一	一	一	一	三
新絳	一	一	一	一	三
蒲州	一	一	一	一	三
計	一	一	一	一	四

八 外國軍隊ノ狀況

管ぬハハ外國軍隊ノ駐屯ナシ

九 渉外事件ノ狀況

該當事項ナシ

(了)

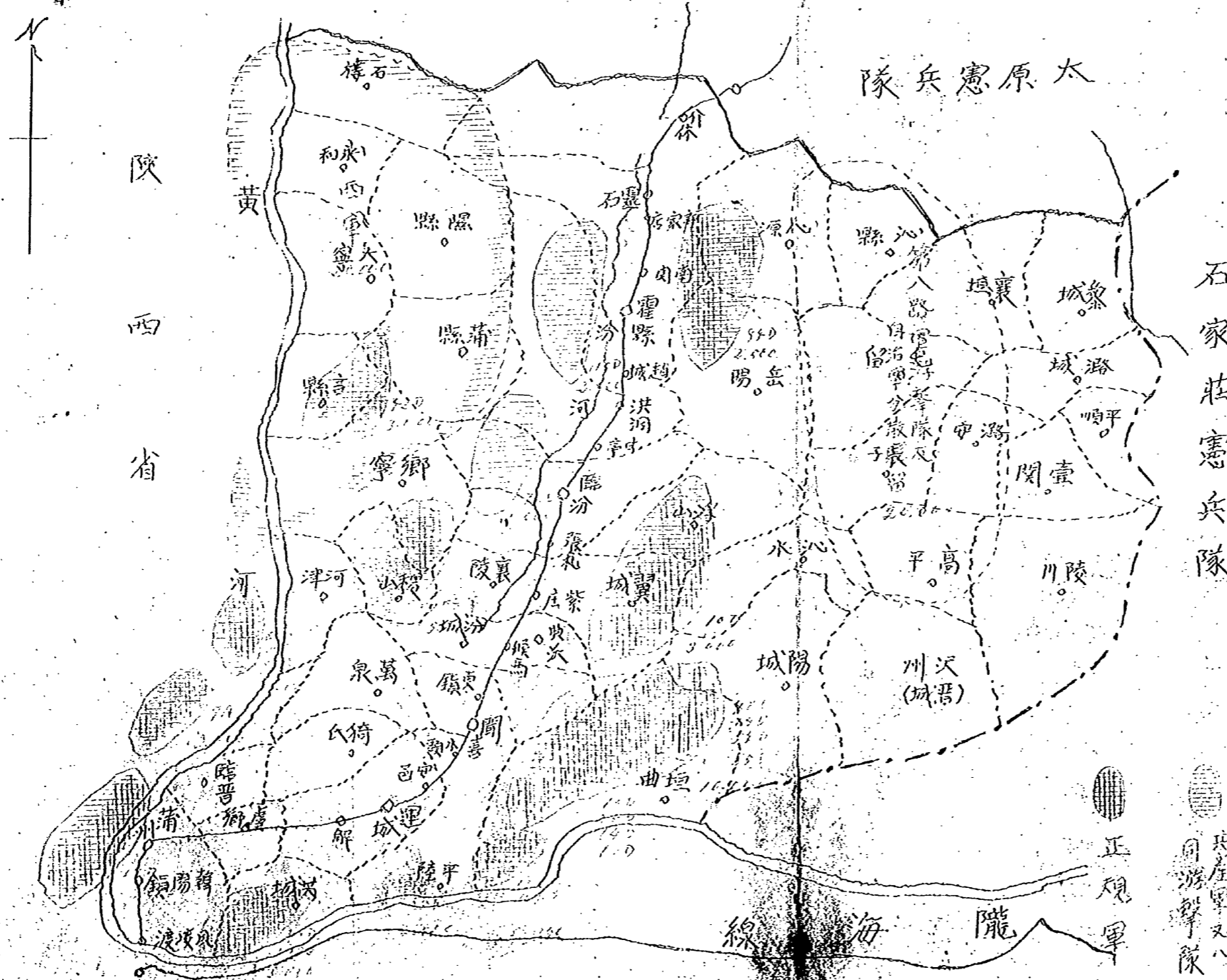
昭和十三年十月二十五日

臨汾憲兵隊長

廣田克雄

圖要布分團非

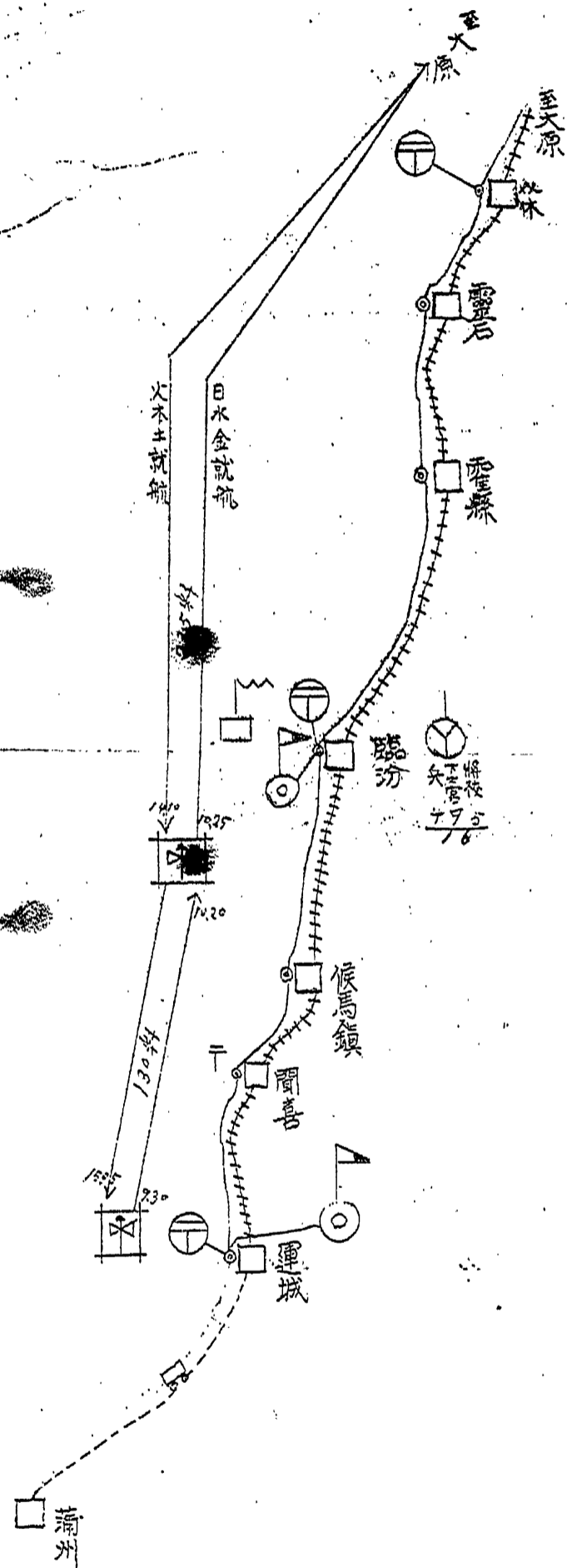
附圖第一



1101

交通通信機關圖

附圖第二



考 備

- 一 鉄道沿線各驛ニハ軍用、鉄道、為鉄ノ各電話アリ
- 一 備置場職員ハ山林、靈縣、運城ニ分遣シテリ
- 一 鉄道大隊ハ山林、靈縣、藤沓ニ各部隊ヲ配属
保線警備ニ任ス
- 一 臨時發着汽電時間ハ状況ニ依リ一定セラルニ目ニ回發着ス
- 一 航空ハ雨天ノ場合就航セズ

例 凡

- | | |
|-----|--------|
| □ | 待直場 |
| --- | 未開通ヲ示ス |
| --- | 有線電信 |
| ○ | 自動車 |

臨汾憲兵隊ノ現状

各級幹部ハ豫テヨリ部下統率ニ甚大ナル
困難ヲ感シ諸勤務ノ遂行意ノ如クナラス卒
部ハ隊間ハ勿論本部ハ隊ノ各内部ニ於
テサハ軋輾摩擦ヲ生シ不平不滿誤解ハ
隨所ニ起リ神經高昂リ感情悪化シ
最近ニ至リテハ勢ノ趨ク所何時如何ナル
事態ヲ惹起センモ測リ知レサル情勢ニア
リシ所十二月一日夜ニ至リ本部下士官
一(曾テ拳銃ヲ發射シテ隊長ヲ威嚇シタ
ル者)ハ分隊カ本部ノ勤務ヲ妨害シアリ
トノ理由ノ下ニ分隊長室ニ侵入シ分隊長
ニ拳銃ヲ突キ付ケテ射殺セントシタルヲ
以テ分隊ハ其ノ主力ヲ以テ自隊防衛並

陸

軍

1103

分隊長身邊護衛ニ任セサルヲ得サルニ至
 レリ而シテ本部下士官ノ本行爲ハ前
 述ノ諸情勢ヨリ生シタル一現象ニ過
 シテ根本塞源ノ処置ヲ講スルニアラサ
 ハ事態ハ愈々紛糾シ更ニ重大ナル不祥
 事件ヲ惹起スルノ虞アルノミナラス憲
 兵トシテ特ニ重大視スルヲ要スル某警
 察務ヲ目前ニ控ヘアル關係上解決ニ
 日時ヲ要シ爲ニ萬一該重大警察務上
 ノ失態ヲ招来スルカ如キコトアラシカ
 極メテ重大ニシテ責任ソ及フ所測リ知
 ルハカラサルモノアリ
 一方事此処ニ至ル迄ニハ本部將校及分
 隊長ヨリ隊長ニ對シ屢々意見ヲ具申

(納谷典京宛)

陸軍

シアルニモ拘ラス常ニ多クハ其ノ容ル、所
 トナラサリシ経過ニ鑑ミ又隊長ノ識能特
 ニ判断力統禦力ヲ考察スル時隊長ニ
 依ル事^能收格ハ到底不可能ナリト判断セサ
 ルヲ得サルモノアリ 依テ分隊長ハ隊長
 ニ對シ速カニ憲兵隊司令部ヨリ事態收
 格ノ為ニ職員派遣^{ヲ要求スル}電報ヲ
 發スル様意見ヲ具申シタル^上處^ニ意^ニ容レ
 ラル、所トナリタル隊長ハ此ノ処置ニ出
 テス十二月四日朝分隊長ニ何等ノ相談ナ
 ク此ノ重大事態ヲ放置シテ密カニ汽車ニ
 テ北京ニ向ヒシコト判明シタルヲ以テ分隊
 長ハ緊急ノ處置トシテ直接司令部職
 員宛電報ヲ發シ事態ノ急ヲ告ケ速時

												司令部職員ハ派遣ヲ切望シタリ
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----------------

(納谷真京東)

事態ヲ此處ニ到ラシメタル原因

遠因 (一般的抽象的原因)

一、隊長ノ部下統率ノ方針及方法適當ナラサルコト

ノ方針ニ一貫性ヲ缺ク——思ヒツキ己レノ氣分機

嫌ニヨリ又持スル部下ノ何人ナルカ又其ノ態度

言語ノ如何ニ依リテ約変ス 部下ハ適從スル

所ニ迷々遂ニハ其ノ人格識能ヲモ疑フニ至ル

必各官ノ職域ヲ尊重セス 干涉壓迫ノ弊甚シ

軍隊ハ上司ノ命ニ依リテノミ行動スルモノナリト言明

シ下級者ノ創意工夫識能判断力ヲ發揮スルノ

餘地ナカラシムルヲ以テ部下明朗性ヲ喪ヒ快々ト

シテ樂シマス 積極進取ノ氣風ヲ損シテ陰慘ト

ナリ而從腹背トナル

3 現地ノ特性ヲ解セス 本部カ各部隊各機關ト

ノ折衝ニ当リ且外勤特務者ヲ設ケテ分隊勤務ヲ縮少シ且之ニ壓迫干渉ヲ加フルタメ分隊ハ走狗タルニ過キサレノ觀アリ

本部カ第一線勤務ニ従フヲ適當トスルノ實情ニアラス——分隊本部間不和ノ原因ヲ作ル——ニ重三重ノ時間ト勞カト面倒トヲ要スル反面相亦亦ノ受クル感ジハ却テ不良ニシテ業務著シク遲滞シ能率甚タ低下ス

二、隊長トシテノ識能 判断力殊ニ綜合判断力ヲ缺クコト

ノ隊長ハ分隊長トハ勿論直接ノ補佐官タル本部將校トモ何事ニ依ラス意見ヲ異ニシ上等兵ニ言ハシムルモ尚且右レト稱スヘキ事柄ニ就テモ左レト主張シ白ヲ黒トシテ處理セシメントスルコト多シ

(持谷長・東京)

又言行不一致ナルヲ以テ其ノ真意ヲ捕捉スルニ苦シム
ム——多クハ真ノ理由ヲ裏ニ秘シアリテ後日何等
カノ機會ニ「ハハア其ノ為カ」ト熟類カシムルコト
アルモ多クハ見戲ニ類スル理由ニ由ル

3. 要談意圖傳達 意見聴取等ノ場合 隊長ノ
言ノ所ハ常ニ要點ニ觸レズ 枝葉末節ニ拘泥シ
テ大綱ヲ遠シ或ハ故意ニ根本ニ觸ル、辯解
為部下ハ其ノ意圖ヲ諒解シテ衷心ヨリ服従ス
ルコト能ハス

三、隊長トシテノ威望 重厚性ヲ缺如セルコト

1. 他人ノ言ヲ輕信シ之ヲ直チニ部下ノ實行ニ移
スラ以テ肯綮ニ値セス 部下ノ信望ヲ失フ

2. 理ヲ以テ部下ヲ説服シ得ス 理不盡ノコトヲモ
命令ト稱シテ實行セシム

3. 怒リ易ク部下ハ意見ヲ具申スルニ由ナシ
 4. 掌ヲ返スカ如ク輕率ニ自己ノ言ヲ覆ス
 4本部將校 分隊長等其ノ地位職責上隊長ト密
 接ナル關係ヲ有スル者ノ意見ヲ聽キ容レサルコト
 1. 意見具申ヲ聽取スルノ雅量ナシ
 2. 報告 意見具申等ヲ聽取シテ其ノ上ニ大所高所
 ヨリノ判断ヲ下シ最後の決裁ヲナスカ如キ態度
 ラ執ラス
 最初ヨリ己レノ欲スル通リノ處置ヲ執ラシムルニ級
 タタリ 爲ニ只口頭命令ノ乱發ニ依リテノミテ
 シテ部下ヲ威壓シアルニ過キス
 5. 前項ニ反シ直接職務上ノ關係ナキ外部ノ者(軍隊
 ノ司令部職員 部隊長等)又ハ部下級者ノ無責任ナ
 ル放言ノ片言隻句ヲ取上ケ之ヲ以テ其儘服務上ノ重

(結谷良・東京)

大要求ヲナス為部下一般怨嗟ノ的トナル

陸軍

昭和十二・十二・東京 助川結

1111